

令和6年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
113	川崎市立栗木台小学校	袴田 深雪

学校教育目標	今年度の重点目標
豊かな心を持ち たくましく生きる 栗木台の子 ○進んで学ぶ子 ○心あたたかい子 ○高め合う子 ○元気な子	・あたたかな聴き方を活かして自分の学びや考えを深める ・自己肯定感、自己有用感を高める ・自己判断力の育成 ・開かれた学校づくりとしてのホームページの充実と適切な情報配信

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 【学び合う学校】 ①基礎学力の定着と活用・授業力向上	ICTを活用した新たな教材や学習活動も積極的に取り入れつつ、「個別最適化学び」や「協働的な学び」の一体的な充実を図り、主体的・対話的な学びの実現に向けた授業改善につなげていきます。 基礎学力定着の土台としての、安心して学べる居場所である学級集団の確立を目指し、さらにウェルビーイングな学級・学校作りに取り組みます。	児童アンケートでは、授業中に「わかった」「できた」と感じる事が「ある」という肯定的な回答が92%でした。中でも「とても」と答えた児童が昨年度の42%から51%まで伸びています。グループ別学習や児童の興味関心等にに応じた課題学習など、様々な学習を取り入れたり、専科や少人数学習、交換授業など、教師間の協力による指導体制を工夫したりしてきた成果と考えられます。	一人ひとりの理解度に合わせた個別の支援や、友だち同士で教え合うグループ活動を通じて、学びを深める場を提供していきます。さらに、小さな成功体験を積み重ねることを大切に、子どもの努力や成果をしっかり認めるよう心がけていきます。興味や関心を引き出す教材や活動も取り入れ、自主性を尊重しながら楽しく学べる環境を整えていきます。安心して挑戦できる雰囲気づくりも大切にし、失敗しても大丈夫だと思える教室の中で、子どもたちが意欲的に学習に取り組めるようにしていきます。
2 【学び合う学校】 ②自分から学びを楽しむ子を目指した学習指導法の研究	4年間研究した国語科や学びのスタンダード「あたたかな聴き方・やさしい話し方」をベースとした言語活動を充実させ、友だちとかかわりながら自ら楽しく学習に向かう児童の指導の手立てを教科の垣根を越えて考えていきます。	モジュールを大切に扱ってきたことが基礎学力の向上につながり、自信をもって学習に向かう姿が増えました。話やすい環境を考えたことで交流を通して楽しく学習する姿が多く見られました。振り返りの時間を確保したこと、次のめあてが明確になってきました。「自ら」という部分では、まだまだ受け身になってしまっていることがあり、今後の課題です。	学習の見通しをしっかりとゴールに向かえるような導入の工夫を行うことが大切です。教科や学習内容ごとに交流しやすく考えを出しやすいグループになるよう考慮していくことも深まっています。「よい聞き手」「よい話し手」を育て、「よい話し手」が学習の深まりを生んでいくことを、児童が体感できるようにしていく必要もあると感じます。
3 【学び合う学校】 ③一人ひとりに応じたきめ細やかな学習支援	一人一人の見取りを大事にしています。複数の職員で学習支援にあたり、個別指導したりするなど職員同士が情報を交換し合い、より適切な指導法を検討実践します。GIGA端末を有効活用し、協働的な学びや個別最適な学びにつなげて行きます。	保護者のABの割合が8%の伸びがありました。川崎市学習状況調査の結果をもとにした学年ごとの重点目標の設定や具体的な取り組み、教員同士の情報交換がよりよい指導につながったと思われます。	来年度は川崎市学習状況調査も3年目になり、より経年変化が見えてくると考えられます。学校全体の傾向や指導一人一人の状況把握に努めていきます。今後も教職員が研修を積んだり、情報交換や研修の成果を共有したりしながら、よりよい学習指導、適切な支援が行える環境を推進していきます。
4 【支え合う学校】 ①一人ひとりを大切にしたい学校(人権・道徳教育の充実)	道徳教育全体計画及び人権教育全体計画に基づいた学びを実施することで子ども達の自己有用感を育み、安心して過ごすことができる学校、学級をめざします。一人一人の見取りを大事にすると共に個のニーズに合った支援教育に努めていきます。	「友達のことを大切にしながら助け合って生活ができた。進んであいさつをしたり、くりここの約束を守ることができた」の問いに対して、とてもそう思う・思うを合わせて回答が96%の回答(児童)となっています。また、保護者アンケートでも「思いやりの心が育てている」ともそう思う・思うを合わせて回答が96%の回答となっています。道徳教育・人権教育からお互いを認め合い共に成長する姿が見られました。また、児童の気持ちに寄り添った声掛けや指導に心がけたことで学校生活での心の安定につながっていると考えられます。	教育支援コーディネーター・学校巡回カウンセラー・養護教諭など、様々な立場から児童の見取りを大切に担任と協力しながら、児童一人一人のニーズに合った支援(学習面・生活面)に心がけ、今後も児童が安心・安全に過ごせる環境作りに努めていきたいと思います。
5 【支え合う学校】 ②自主的な活動の充実	よりよい栗木台小学校にするために、代表委員会を中心に話し合いを行っています。本年度も、児童の学校生活の中から出た学校全体で話し合う必要があることを中心に、GIGA端末を活用しながら有意義な代表委員会にしています。自主的な活動を充実させ、それらの活動を通して、見通しをもって行動する力や、物事を計画的に進める力を育てていきたいと思います。また、今年は、市政100周年なので、学校全体で盛り上げていけるような活動を考えていきます。	「集会や行事などいろいろな活動に積極的に取り組みました」の問いに対して児童は、Aそう思う63%B大体そう思う33%あわせて96%の回答になっています。運動会などの学校行事やあいさつ運動では、より盛り上げるためにどんなことができるかを代表委員会が話し合い、各委員会や学年で取り組んできました。そのため子供たちは、自分たちで活動を作り上げたという充実感や達成感をもつことができたと思われます。	今後も子供の思いを大切にしながら自主的な活動を充実させ、それらの活動を通して、見通しをもって行動する力や、物事を計画的に進める力を育てていきたいと思います。また、保護者の方にも活動を知ってもらえるように、ホームページでの発信を充実させていきたいと思います。
6 【安心・安全な学校】 ②交通安全・防災、防犯対策の確立	栗木台小学校版の災害対応マニュアルを教職員で共通理解するとともに、保護者向けに「学校安全ナビ」を配付し、危機管理の意識向上を図る。防災意識を高め、どのような災害においても、児童が自分の身を守る行動がとれるようにするために、地震や火災などを想定した訓練を実施します。保護者への引き渡し訓練を行い、避難訓練やシェイクアウト訓練などを定期的を実施します。 交通事故を未然に防ぐために、交通安全教室を1年生と4年生で実施し、交通ルールを知ったり、安全に自転車を運転したりする機会を設定します。不審者が侵入した際の身の安全を確保するための適切な行動について学ぶ、防犯研修や防犯訓練を実施します。	児童が自分の身を守る行動がとれるようにするために、地震や火災などを想定した避難訓練やシェイクアウト訓練、引き渡し訓練を計画的に実施しました。今年度は、昨年度の反省を生かし、中休みに避難する訓練も取り入れられました。毎回の反省は次の訓練に生かすようにしました。避難した際の整列順については、今後も検討していきます。 交通安全教室や、不審者対応訓練も実施し、児童の安全に対する意識を高めたり行動の仕方を確かめたりできるようにしました。	引き続き、災害対応マニュアルを教職員で共通理解できるようにしていきます。避難訓練や引き渡し訓練における校庭での整列順については、より分かりやすくするよう学年の順番や表示などを検討していきます。今後も、様々な状況を想定して、各種訓練を実施していきます。
7 【安心・安全な学校】 ③校舎内外の整備・教育環境の整備	安全で快適な学校施設であるために、毎月教職員で安全点検を行っています。快適な学習環境を保ち、修繕等を速やかに実施するために、教育委員会事務局や学校施設包括管理グループへ速やかに當繕申請を行います。令和7年度に実施される体育館再生整備工事に向け、より良い体育館になることをめざし、関係機関と連絡調整を密に行います。	不具合箇所については、毎月の施設管理点検等で報告され、迅速に対応してきました。学校評価においても、9割以上が肯定的な回答でした。学校外対応の不具合は、包括管理グループや教育委員会に速やかに報告するなど、早期対応を心掛けたが、一部未実施の箇所があります。体育館の再生整備に向けては関係機関や施設開放委員会等と連絡調整を密にし滞りなく進めることができました。	今後も修繕に関しては、教育委員会や包括管理グループに、粘り強く働きかけるよう努め、一部未実施の箇所の修繕完了を目指します。体育館の再生整備工事については、施設開放委員会とも連携しつつ、児童にとってより良い学習環境となるように検討を重ねています。
8 【安心・安全な学校】 ①教育計画の取組と成果の情報公開	ホームページを通して、学校だよりや学年だよりなど学校からの情報や児童の様子を家庭や地域に配信します。今後も、学校での児童の様子を知って安心してもらえるよう、各学年の活動を、写真や文章で伝えています。	ホームページを日々更新し、子どもたちの様子を積極的に伝えてきました。一方、時期や学年により、更新頻度に差が出るがありました。	更新内容が家庭での話題になるという保護者の声もあります。特別な行事に限らず、日頃の様子も含めて、日常的に更新を続けていきます。

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
・挨拶は家庭からだと思うが、挨拶をしない家もあると聞きました。自分たちで子供達が進んで挨拶を推進したのは、すばらしいです。自分の子供の頃にはなかった学校運営に子供達が関わる姿が見られました。 ・6月に参観した時より、子供達の成長が感じられた。GIGA端末の活用も進んでいることが分かりました。 ・ウェルビーイングとして職員の働き方も気になりました。 ・学校の防災ナビを地域でも参考にしたいです。	・学び合う学校として、今まで研究で意識してきた温かい聴き方・やさしい話し方を活かして、自ら動き出す子の育成をいろいろな教科等で推進しました。今後も児童主体の学習となり、それが深い学びにつながるよう教職員一同磨きをかけていきたいと思います。 ・支え合う学校として教職員で連携を図り、多様な児童へのきめ細やかな対応を行うよう努めました。問題発生時は、速やかに対応することに校内一丸となり進めてきました。どの子どもも学校が落ち着ける場所となるよう今後も細やかに児童を見とり、対応を進めていきます。 ・安心安全な学校を目指して毎月の校内の安全点検、避難訓練を実施しました。不審者対応訓練は、麻生警察に協力を要請しました。来年度は、校内で再生整備工事があるので、児童の非常時の避難など柔軟に対応したいです。